

黙示録 10 章 5 節-11 節 スタディーガイド

★ 黙示録 10 章 5 節-6 節

それから、私の見た海と地との上に立つ御使いは、右手を天に上げて、永遠に生き、天とそこにあるもの、地とそこにあるもの、海とそこにあるものを創造された方をさして、誓った。「もはや時が延ばされることはない。」

5 節「海と地との上に立つ御使いは、右手を天に上げて」

これは、誓いをする時のジェスチャーです。

6 節「永遠に生き、天とそこにあるもの、地とそこにあるもの、海とそこにあるものを創造された方をさして、誓った。」

誓っている内容は、「もはや時が延ばされることはない」ということです。

黙示録 6 章の第五の封印で、「……神のことばと、自分たちが立てたあかしのために殺された人々のたましいが祭壇の下にいるのを見た。彼らは大声で叫んで言った。『聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者に私たちの血の復讐をなさらないのですか。』……『あなたがたと同じしもべ、また兄弟たちで、あなたがたと同じように殺されるはずの人々の数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいなさい』と言い渡された」と書かれています。

「まだ時が来ていないから、休んでいなさい」と言われていましたが、いよいよ聖徒たちの祈りの答えられる時が来たことを語っています。

★ 黙示録 10 章 7 節

第七の御使いが吹き鳴らそうとしているラッパの音が響くその日には、神の奥義は、神がご自身のしもべである預言者たちに告げられたとおりに成就する。

第七の御使いが吹き鳴らそうとしているラッパの音が響くその日

第三のわざわいが始ります。

第七のラッパに、最後の七つの鉢の災難である、最も恐ろしい災難が含まれています。これが大患難時代の、後半の 3 年半です。

★ ダニエル書 12章 7節

……彼は、その右手と左手を天に向けて上げ、永遠に生きる方をさして誓って言った。
「それは、ひと時とふた時と半時である。聖なる民の勢力を打ち砕くことが終わったとき、これらすべてのことが成就する。」

ここでも御使いが、永遠に生きる神様に誓っています。

右手と左手を天に向けて上げ

右手だけではなく、両手も上げて誓っています。

ひと時とふた時と半時

ひと時が1年、ふた時が2年、そして半時が半年のことですから、合計すると3年半です。神の御国の到来まで、残るは聖書暦である太陰暦の3年半、1260日であって、それは、1日として延ばされることがないと言っているのです。

聖なる民の勢力を打ち砕くことが終わった時、これらすべてのことが成就する

聖なる民とは、イスラエルの民のことです。

イスラエルの民の自我が打ち砕かれ、「神様であるメシアに頼るしかない」というところに達して主に叫ぶ時、すべてのことが終わり、神の御国が到来すると語っています。

黙示録 10章 7節の神の奥義は、神がご自身のしもべである預言者たちに告げられた通りに成就するということであり、黙示録の 550 箇所は旧約聖書にすでに語られていることです。旧約聖書と新約聖書からなる聖書全体は、一貫して神様の奥義が語られているのです。聖書のみことばがすべて成就します。

★ 黙示録 10章 8節-11節

それから、前に私が天から聞いた声が、また私に話しかけて言った。「さあ行って、海と地との上に立っている御使いの手にある、開かれた巻き物を受け取りなさい。」それで、私は御使いのところに行って、「その小さな巻き物を下さい」と言った。すると、彼は言った。「それを取って食べなさい。それはあなたの腹には苦いが、あなたの口には蜜のように甘い。」そこで、私は御使いの手からその小さな巻き物を取って食べた。すると、それは口には蜜のように甘かった。それを食べてしまうと、私の腹は苦くなった。そのとき、彼らは私に言った。「あなたは、もう一度、もろもろの民族、国民、国語、王たちについて預言しなければならない。」

8節「さあ行って、海と地との上に立っている御使いの手にある、開かれた巻き物を受け取りなさい。」

左足を海の上に、右足を地の上に置いている御使いですから、この巻物は全世界に関連していることが書かれていると考えられます。

9節『その小さな巻き物を下さい』と言った。すると、彼は言った。『それを取って食べなさい。それはあなたの腹には苦いが、あなたの口には蜜のように甘い。』

エゼキエル書3章3節で「……『人の子よ。わたしがあなたに与えるこの巻き物で腹ごしらえをし、あなたの腹を満たせ。』そこで、私はそれを食べた。すると、それは私の口の中で蜜のように甘かった」と記されています。

エゼキエルの食べた巻物は、蜜のように甘いみことばでした。しかしヨハネの食べる巻物は、やはり蜜のように甘いみことばですが、腹には苦いものです。

詩篇119篇103節「あなたのみことばは、私の上あごに、なんと甘いことでしょう。蜜よりも私の口に甘いのです。」

神様のみことばを読んで学ぶと、甘い結果が私たちの魂に与えられます。しかし、終わりの日の預言を知るとは、未来の人々の頑なな心と、滅んでゆく人類の苦しみを知らずともあります。

腹に苦い物を食べると、吐き出すしかありません。主の御心の人々に伝え伝道することが、苦い腹を癒やします。

11節「あなたは、もう一度、もろもろの民族、国民、国語、王たちについて預言しなければならぬ。」

与えられた預言を語って伝道しなければならぬと、ヨハネは告げられています。

★ ルカの福音書16章19節-21節

ある金持ちがいた。……毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。ところが、その門前にラザロという……貧しい人が寝ていて、金持ちの食卓から落ちる物で腹を満たしたいと思っていた。

これは、イエス様がアブラハムのふところと呼ばれる、パラダイスとハデスの話をされた時のことです。

金持ちは贅沢三昧に遊んで暮らし、貧しい病人のラザロを気に掛けませんでした。

死後、金持ちはハデスに行き、貧しいラザロはアブラハムのふところと呼ばれるパラダイスに行っています。

金持ちはアブラハムのふところにいるラザロを見て、アブラハムに叫んでいます。

★ ルカの福音書 16 章 27 節－31 節

彼は言った。「父よ。ではお願いします。ラザロを私の父の家に送ってください。私には兄弟が五人ありますが、彼らまでこんな苦しみのある場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。」しかしアブラハムは言った。「彼らには、モーセと預言者がいます。その言うことを聞くべきです。」彼は言った。「いいえ、父アブラハム。もし、だれかが死んだ者の中から彼らのところに行ってやったら、彼らは悔い改めるに違いありません。」アブラハムは彼に言った。「もしモーセと預言者との教えに耳を傾けないのなら、たといだれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。」

27 節－28 節「父よ。ではお願いします。ラザロを私の父の家に送ってください。私には兄弟が五人ありますが、彼らまでこんな苦しみのある場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。」

29 節「彼らには、モーセと預言者がいます。その言うことを聞くべきです。」

これは、「聖書のみことばが、すでに彼らに与えられているゆえ、みことばに従えばパラダイスへ行けるのです」と言っているのです。

30 節「いいえ、父アブラハム。もし、だれかが死んだ者の中から彼らのところに行ってやったら、彼らは悔い改めるに違いありません。」

なるほどと思うようなことばです。

31 節「もしモーセと預言者の教えに耳を傾けないのなら、たといだれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。」

人間の心の頑なさを語っています。

このイエス様のことばは、この世で生きている間に悔い改めをしなければ、セカンド・チャンスはないと言っているのです。

生きている間に聖書をしっかり学んで、神様に従う者は神の御国に入れます。

ヨハネがもう一度、「もろもろの民族、国民、国語、王たちに」預言をしなければならないと言われているように、私たちも滅び行く人類のために、苦い思いをして、救いの道に導く伝道をしなければなりません。